

議会です こんにちは

留萌市議会だより

第139号

令和3年2月1日発行

留萌市議会事務局

TEL42-1907 FAX43-6700

URL : <http://www.e-rumoi.jp/gikai/index.html>

E-mail : rumoishigikai@basil.ocn.ne.jp

留萌市議会

検索



※左記のQRコードからも留萌市議会のホームページにアクセスできます。

主な内容

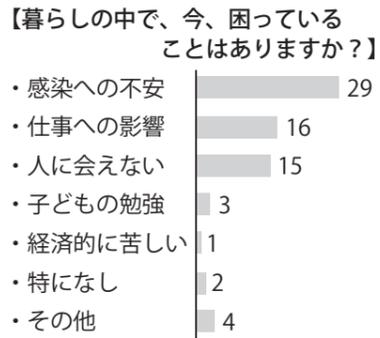
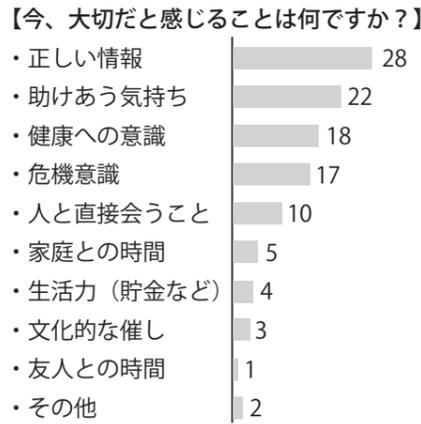
- P6 ・議会活動が分かりやすく！より身近に！
- P7 ・「市民と議会の意見交換会」
- P8 ・第1・第2常任委員会からの報告
- P9 ・議会運営委員会などからの報告
- P10～P12 ・第4回定例会一般質問と答弁
- P13 ・こんなことが決まりました ほか

「市民と議会の意見交換会」

参加予定団体への事前アンケートから抜粋（回答数35件）

11月13日に予定していた「市民と議会の意見交換会」は、新型コロナウイルス感染者の警戒ステージ引き上げにより、中止しました。事前アンケートで頂いたご意見は、今後、議会で検討して参ります。

1. 暮らしについて（複数回答）



2. 新しい生活様式と言われる中、あなたはこの変化をどう感じていますか？

- これからの地域社会の在り方としては効果もあると思う。
- 留萌市民全体で「新しい生活様式」をよく理解し、それぞれの生活に合わせて実践を継続していくべき。
- コロナ後の未来像も同時に考えていかなければいけない。
- コロナ感染防止のためには必要なことだが、ストレス、不安、健康などに負荷が出ているように思われる。ガイドラインのもと、スポーツ・文化などのイベントを増やすことが必要。
- 遠出して帰った後、3週間くらいは体調の変化、感染状況の報道が気になる。
- いつまでこの状態が続くのかという不安を感じる。
- 経済がもたないのでは。

議会活動が分かりやすく！より身近に！

留萌市議会では、議会に関する情報の公開を推進するため、SNS（ソーシャルネットワークサービス）を効果的に活用した「フェイスブック」ページを開設しました。市民への情報発信および情報共有をより一層進めていきます。また、市民の声を議会活動に反映させるために「意見箱」を設置しました。



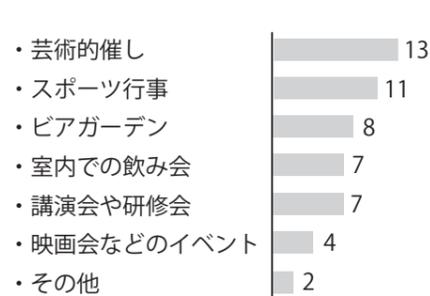
《フェイスブック（Facebook）》 広報活動

12月からフェイスブックページを開設しました。
定例会や一般質問、各常任委員会、議会運営委員会のほか議会活動全般を随時、情報公開し「分かりやすく、開かれた」議会を市民と共に目指していきます。
※コメント欄における返信は原則行いません。詳しくは留萌市議会フェイスブック運用方針をご確認ください。



3. 今年行けなかったイベントなどに特に残念だったものは何ですか？

- 呑涛まつりなど、祭りや夏のイベント。
- 特産品を販売するイベント。
- スポーツの大会、コンサート。
- 福祉理解を深める事業。



5. あなたが身近に感じるコロナ禍における課題についてお聞かせください
- 冬季の再発生への不安。
 - 安心して外に出て人と会える方法。
 - 濃厚接触者の内PCR検査受診数、検査による陽性者数、陰性者数の開示。

《議会意見箱の設置》 広聴活動

あなたの声を聞かせてください！
「意見箱」設置場所は「市役所1階ロビー」と「るもいプラザ2階のまちなか賑わい広場」です。木工クラフト『萌樹工房』製作のKAZUMOちゃんポスト。設置してある記入用紙に議会に対しての気付きや疑問、改善すべきことなどご意見をお寄せください。寄せられた意見は、今後の議会運営や市政への提言に反映すべきかなど協議します。



- コロナについての正しい情報。
- 低料金で、気軽に受けられる検査体制。
- コロナ慣れで「新しい生活様式」が疎かになり危機意識が低下。
- 何より感染者への差別をなくすことが大切。
- 受診を控えるなど健康面、経済活動の不安。
- ワクチンが行き届くまで経済回復は難しいのでは。
- 今後のビジネスに活動への影響。
- 保育環境は密が避けられない。



6. コロナ禍においてこれからの留萌市に期待することは何ですか？
- ICTなどを積極的に活用した地域産業の振興。
 - コロナ禍で影響が出る幅広い業種や、収入減になっている方への支援。
 - 市民団体が活動を行うために対策を講じる備品費などの補助。
 - 市民との対話により良い方策を考え、すばやい実行と正しい情報。
 - 希望通り検査を受けられようにする。
 - 企業向けコロナ対策助成金制度。
 - リモートワークの普及。
 - コミュニケーションをとるための通信網の整備。

第1常任委員会

第16回第1常任委員会で、地域振興部から、JR留萌本線の「部分分統」の可能性と「廃止になった際の代替バス運行」について並行し検討していく対応が報告されました。

都市環境部から、市営住宅の9月末の管理戸数は、1213戸中、930戸が入居、76・67%の入居率との情報提供を受けました。



▲五十嵐町市営住宅リラ

令和4年度新料金開始予定

第18回第1常任委員会で、留萌市の水道料金は、前回の料金改定以降10年を経過。令和4年度に純損失を計上する見込みとなり水道料金改定案を上下水道運営委員会へ諮問。令和4年4月から新料金徴収開始予定であることを都市環境部から報告を受けました。

また、除雪事業に係る最低保証について、受託費の75%の最低保証額を設定したことについて情報提供がありました。



▲除排雪の様子

第2常任委員会

市民の公衆衛生の保持と高齢者の外出確保のため、温泉施設送迎車両運行事業の実施とその後検証結果の報告がありました。利用者の状況は12月15日時点で延べ人数293人となっています。

また、留萌市立病院でのPCR検査装置の稼働状況や上半期の診療科別患者数の状況について報告がありました。教育委員会から通



▲温泉タクシー「おんせんタクー留」を利用する市民

学路の安全確保について関係機関との合同安全点検を実施し、子どももの安全確保を図っているのとことでした。

10月27日に留萌中学校、東光小学校の視察を行いました。留萌中学校では、校舎の外壁や屋根などの大規模改修工事の状況、および洋式トイレへの変更など新型コロナウイルス感染症予防対策を確認。また、東光小学校では、コロナ感染対策として網戸設置および手洗場改修などを確認しました。

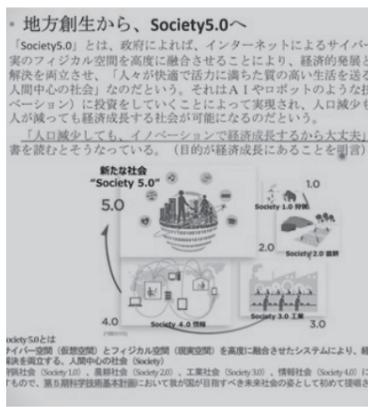


▲新型コロナウイルス感染症対策を行う市内小中学校を視察(東光小学校)

議会運営委員会

令和2年度北海道プロテック2040未来ビジョン出前セミナーを受講

留萌市議会では、11月12日、人口減少時代のまちづくりと地域社会の活性化などについて理解を深めるため、オンラインによるセミナーを受講しました。



ナーを受講しました。

当初、旭川市でのセミナーに参加する予定でしたが、コロナ禍により、オンライン方式による開催となり、議員研修会と位置づけ受講することとしました。

山下祐介東京都立大学人文文学部教授を講師に、高齢者人口が最大となるといわれる2040年頃を見据えた対応について、各自治体議会の責務に触れ、地域課題を解決するために知識や見識、教養を深める重要性など、さまざまな課題を抱える地域を例に講演が進められました。

参加した議員は、オンラインによる初めての講演を食い入るように視聴し、今後、到来する人口減少時代と地域が直面する課題の解決、そして新しい地域づくりにつなげるための想いを一層強くしたセミナーでした。

留萌市林活議連

市議会議員全員で組織している「留萌市森林・林業・林産業活性化議員連盟(林活議連)」は、10月30日、市内の樽真布および幌糠各地区事業現場を議員10人が視察しました。

市農林水産課の職員の同行をいただき、そして現地での説明を受けました。

樽真布地区では、将来木材として利活用を期待する「トドマツ、アカエゾマツ」2500本を植樹していること。

幌糠地区では、間伐材の伐採などの森林管理道路の整備(道と市の負担で、延長は3740メートル)



ル)をしていること。

説明を受けた議員は、現地の状況を目にし、担当市職員の説明を受けながら、事業についての理解を深め、視察を終えました。



令和2年第3回定例会

一般質問と答弁



とみす みほこ 戸水美保子 留萌公明党

質問 コロナ禍での差別・偏見を抑止する取り組みについて

新型コロナウイルス感染症は誰もがかかる可能性があることから、かかってしまった方をどのように地域で支えたいのか共通理解を持つべきと考えるが、市長の見解を伺う。また、愛媛県で始まった「ただいま」「おかえり」と言い合える、思いやりのある地域づくりを進めるシトラスリボン運動のようない取り組みを行うお考えはないか。

答弁 不確かな情報に惑わされ、差別やいじめなど人権侵害につながるような行為が起こることのないよう、市のホームページや広報誌、FMもえるなどを活用した情報発信と啓発活動に努めていく。各地で行われている取り組みについても参考にしていきたい。

質問 感染予防対策設備支援事業について 現在進めている本事業について、これまでの利用状況はどうか。現在の補助対象業種のほかに、対象を拡大する考えはあるか。また、予算の執行状況を鑑みて、助成割合を引

き上げるなどして苦境にある事業者の負担を減らし、事業申請しやすくする検討を行う考えはあるか。その上で、本事業の活用を促し、市内の事業所に感染予防対策設備の整備がより進むようにはどうか。



来店者の体温を測定するサーモカメラ・非接触型器具

答弁 現在までの予算の執行率は低い。この事業が始まる前からすでに感染予防対策設備を整備している事業所もあると考えている。

業種については先月、あまなどの療術業を追加し、事業者にお知らせしたところである。今後も必要に応じて検討していく。

今後、助成割合などの検討も庁内において進めるが、まず当初決定していた業種について要件などを緩和して、申請を促して行きたい。事業者には、

この事業を活用して頂き、市民が安心して利用できる環境を整えて、店舗などに足を運んで貰えるようにしてほしい。



こぬま きよみ 小沼 清美 無党派

質問 教職員の1年単位の变形労働時間制の導入について

恒常的な時間外労働がないことを前提として、繁忙期に1日10時間労働まで可能とする「教職員の1年単位の变形労働時間制」の対応について伺う。

1年単位の变形労働時間制導入に当たった前提～導入の手引き～ (文部科学省)
<前提となる事項>
①対象期間には、長期休業期間等を含むこと
②勤務日や勤務時間の設定に当たっては、通常の正規の勤務時間に比して短く設定する日には勤務時間を割り振らず、かつ、長期休業期間等において勤務時間が割り振られない日を連続して設定すること
③育児や介護等を行う者については、これらの者が育児等に必要時間を確保できるような配慮をすること
④対象となる教育職員の在職等時間に関し、指針に定める上限時間(42時間/月、320時間/年等)の範囲内であること
⑤服務監督教育委員会及び校長は、指針に定める全ての措置を講ずること

▲1年単位の变形労働時間制導入に当たった前提～導入の手引き～ (文部科学省)

答弁 本制度は業務の状況に応じて勤務時間を配分し、長期休業期間中に集中して休日を確認する制度であり、学校の働き方改革を推進する一つの選択肢である。しかし、この制度の活用によって単に勤務時間を縮減するもので

はなく、他の施策と併せて講ずることにより業務量を確実に削減させ、教職員が健康的に勤務できる環境をつくるなどを目的として実施されることが重要であると認識している。国が指針で定めた上限である時間外在校などの時間、月42時間、年320時間以内であることが導入の前提である。しかし、今年度は新型コロナウイルスの影響で一斉休校など通常の学校における勤務体制ではない状況にある。また、制度導入に伴う学校現場の管理職員の業務の増加や、教職員への制度の周知理解も必要不可欠であると認識している。

教職員一人一人が生きがいを感じ、心身にゆとりを持って子どもたちと向き合う時間が確保できるように、校長会などとも十分意見交換を行うなどして、適切に判断していきたい。

質問 不登校児童・生徒に対する施策について 不登校の児童・生徒の居場所について、どのような施策を行っているか伺う。

答弁 各学校において不登校になる前のさまざまなサインに気付き、早期の発見対応に努める。また、学校に登校するとういう結果のみを目標とするのではなく、不登校児童・生徒に寄り添い、自らの進路を主体的に捉え、社会的に自立することを目指せるように支援していく。学校以外の居場所として、教育支援センターの設置は有効な支援策

の一つであると認識しており、必要な人材確保や道内の各地の状況について調査研究しながら検討していきたい。

道事業は沖見町・見晴町地区で雨水管の敷設行っている。来年度以降も引き続き実施を予定している。水道事業については野本町・千鳥町地区の配水管敷設工事に着手しているが令和3・4年度は沖見町見晴町地区の配水管敷設工事を実施する。第4次留萌市道路計画は来年度、新たに5路線で整備を予定しており、進捗率は82%程度になる予定。実施できなかった路線は新たな計画の中で再評価して検討したい。



かさらは まさふみ 笠原 昌史 民進

質問 留萌市の防災対策について 市は十字街西ビルを防災備蓄倉庫として確保した。この施設にはどのようなものが備蓄されるのか。

さらに、災害時の一時的な緊急避難場所として活用することは可能か。また、地元FM放送局が導入したスマートフォン専用アプリによるラジオ放送を災害時の情報伝達に活用する考えを伺いたい。



▲留萌市防災備蓄計画に基づき生活用品や資機材が備蓄される防災備蓄倉庫

の施設は洪水や津波の浸水想定区域外であり、耐震性も有していることから緊急避難場所として活用可能と考えている。また、近隣住民からも要望されているので、ビル全体の活用を検討したい。

地元FM放送局が災害情報等を文字配信するシステムを導入予定と聞いている。有効な情報伝達手段として確立できるように連携方法について協議していきたい。

質問 デジタル・デイバインド(情報格差)の解消に向けて 市が電子決済システムの実証実験を行う目的とデジタル・デイバインドによりサービスを受けられない方をつくらないための解消策、市民向けのスマートフォンなどの講習会開催の取り組みの考えについて伺いたい。

答弁 実証実験は、アフターコロナを見据え、キャッシュレス化社会に向けた準備をいち早く整え、公金の一部電子決済化やポイント還元などの実証実験を行い、課題などを検証していきたい。スマートフォンなどに不慣れた方や利用を希望しない方に対し、広報誌やホームページなどの活用により各種情報を提供していく。また、スマートフォンを活用する方法に関する講習会を実施したい。



▲南9条通りの道路整備工事

答弁 令和3年度は、見晴町・沖見町地区の用地・物件補償や通行不能区間の環境調査など、野本町・千鳥町地区で路盤舗装工事などを予定しており、令和6年度の完成と聞いている。下水

こんなことが決まりました

令和2年 第4回定例会
11月30日～12月10日

令和2年第4回定例会が11日間の会期で開催され、報告1件、議案23件、意見書案2件などを審議しました。

【報告】

- 議長の動向について 了

【議案】

- 令和2年度留萌市一般会計補正予算（第17号）
- 令和2年度留萌市国民健康保険事業特別会計補正予算（第3号）
- 令和2年度留萌市後期高齢者医療事業特別会計補正予算（第1号）
- 令和2年度留萌市介護保険事業特別会計補正予算（第3号）
- 令和2年度留萌市下水道事業特別会計補正予算（第2号）
- 令和2年度留萌市病院事業会計補正予算（第2号）
- 留萌市一般職員給与条例等の一部を改正する条例制定について
- 財産の取得について
- 市道路線の認定について
- 市道路線の廃止について
- 地方税法等の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例制定について
- 留萌市観光施設等の指定管理者の指定について

ほか11件 原案可決

【意見書案】

- 不妊治療への保険適用の拡大を求める意見書
- 住まいと暮らしの安心を確保する居住支援の強化を求める意見書 原案可決

編集後記

新年あけましておめでとうございます。

昨年は新型コロナウイルスの影響でさまざまな行事が中止となったり、生活面でも感染防止に十分留意した行動制限が行われました。

11月13日に予定していました「市民と議会の意見交換会」も実施することができませんでした。

このような中、11月30日開催の第4回定例会では、コロナ関連、学校の教育環境、市政運営、防災、公共施設、JR、道の駅など重要な課題について活発な審議が行われました。

また、市議会では、「留萌市議会だより」のほかに新たに「フェイスブック」の開設や、「意見箱」の設置を行い、議会の広報広聴活動の強化を図っています。（芳）

各組合議会からの報告

留萌消防組合議会

令和2年留萌消防組合議会第1回臨時会を11月30日に開催し、専決処分の2件を承認し、「留萌消防組合職員給与と条例の一部を改正する条例制定について」の1件を審議し可決しました。

また、12月23日に開催の第2回定例会は、一般質問と「令和元年度留萌消防組合歳入歳出決算の認定について」「令和2年度留萌消防組合補正予算第1号」の2件を審議し可決しました。

留萌南部衛生組合議会

令和2年12月15日、第5回南部衛生組合議会「議員協議会」が開催されました。

協議会の中で、組合議長から「ごみ焼却施設の勉強会」の立ち上げについて提案があり、全会一致で了承されたところです。勉強会立ち上げの考え方は、ごみ焼却施設の将来展望について、議会においても調査研究をすることが必要であるとの認識から、立ち上げに至った次第です。

ごみ焼却施設について勉強を

令和2年12月15日、第5回南部衛生組合議会「議員協議会」



平成31年9月の町内会長会議で示された「船場公園地区周辺エリア整備全体像」(案)

▲新たな公共施設誘導ゾーン（生涯学習センター、交通ターミナル、駐車場、広場など）

【答弁】今後の改築事業を見据えた中で市債発行額の基準ハード8億円とソフ

駅前周辺地区の立地誘導を前提に道の駅るもい周辺地区と一体となった公共施設整備は、来年秋頃までに基本構想策定、令和4年度以降で基本計画と基本設計、5年以内の完成を目指しているが、JR留萌本線の方向性がこのまま進まない場合、沿線自治体会議を離脱することも視野に入れているのか聞きたい。会議の次回日程を聞きたい。



むらやま 村山ゆかり
萌芽クラブ

【質問】市の財政と公共施設整備 留萌市中期財政計画5年間の進捗状況を見据えた令和3年度の財政見通しを聞きたい。

市の地方債残高は、約29.2億円。地方債残高を増やさないために公共施設更新に係る予算は、どの範囲に設定できるのか。

ト1億円の計9億円とし、5年総額45億円の範囲で年度内の調整を行い、これらを踏まえた令和3年度の財政見通しでは、2億円を超える収支不足が見込まれることから、事業の見直しや財源の確保に努め、収支不足の圧縮・解消を図っていききたい。

公共施設更新費用は、具体的に算出していないが、道内類似市を参考にすると文化施設とスポーツ施設でそれぞれ20億円から30億円程度が予想される。

JR留萌本線沿線自治体会議を離脱する気持ちはない。廃線問題のほか、代替交通について提案されているので今後もしっかりと話を進めていききたい。会議は、できれば年内に無理であれば、年明けで調整している。

【質問】留萌駐屯地の充実・発展 自衛隊留萌駐屯地の充実・発展を求める要望活動が行われているが、防衛省の対応、ただ話した話を聞きたい。

【答弁】要望項目に対する明確な回答はなかったものの、留萌駐屯地の機能充実に向け、上級官庁への積極的な働きかけや前向きな検討を行う旨のお話をいただいた。

また、令和3年度には、電子戦部隊が新設されて、留萌駐屯地には、10人から15人程度の増員計画があると聞いている。



うしろ 雪子
無党派

【質問】道の駅るもい開設後の現状と展望について

道の駅るもいは、コロナ禍の時期にオープンしたが、想定を超えた人が訪れた。冬期間における集客方法や、活用方法を伺いたい。道の駅を利用した人の「眺めが良い」などの意見の反面、「期待外れ」などの厳しい意見も多かったが、来年度に向けて具体的に何か検討しているか、また、道の駅から街中へ人を誘導するためのアイデアやプランも伺いたい。

【答弁】冬の活用としては、雪を活用した子どもの遊び場としての環境をつくりたい。また、道路状況の発信や防災拠点としての活用を考えている。

来年度に向けては、皆さんからの意見を真摯に受け止め、留萌らしい道の駅をつくらせていきたい。まちの中へ来訪者を誘導するために、専任の観光コンシェルジュの起用や、観光パンフレットを作っていくきたい。

【質問】JR留萌線一部廃止による今後の方向性について



▲留萌駅裏の整備予定エリア

JR北海道が廃止・バス転換方針を示している留萌本線の「留萌本線沿線会議」において、留萌市が、JR留萌本線の存続を断念し、廃線を受入れる事を伝えたが、廃線を断念した経緯を伺いたい。また、JR留萌本線廃止により、留萌駅周辺だけでなく、留萌市全体のまちづくりにも大きく関わると思われるが、市長は廃線後の駅周辺一帯の整備構想をどのように考えているのか伺いたい。

【答弁】廃線受け入れは大変厳しい判断であったが、JR北海道への財政支援の法律改正の期限が迫る中、新型コロナウイルス感染症の影響により、JR北海道の経営は大きな打撃を受け、赤線区に国の支援は困難であり、現在の都市間バスの経営状況や、現在の鉄道利用状況において存続は大変厳しいと考えた。

駅裏の道の駅るもいと一体となった駅周辺エリアは、廃線後もにぎわいが失われないように、まちづくりに重要なエリアであると考えている。

この新たな公共施設の立地を核として、市内交通アクセスの向上や乗り継ぎ環境の整備、周辺商業施設も含め、市民が回遊できるエリアとしたい。